

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900493		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲沢重本の家 1号館		
所在地	愛知県稲沢市重本2丁目84番地		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	平成30年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2373900493-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が家庭の延長として本人の意向に沿い、安心と喜び又は毎日笑顔のある生活が送れる様に努め、共同生活を提供します。医療面においては、協力医であるクリニック(往診)での対応させていただきます。毎日バイタルチェックなど体調管理させていただきますので異常時早期発見に努め、異常時には協力医に相談します。毎月施設で色々なイベントを考え、利用者様に楽しんで頂いています。利用者様と地域行事にも参加しています。年2回ごみゼロ運動やお宮掃除などに参加しています。また、外出支援にも力を入れ、喫茶店に行ったり、公園に散歩行ったり、あじさいを見に行ったり、いちよう祭りに行ったりします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年を経て重度化した利用者を見るにつけ、「このような状態の手前で何とか食い止めたい」「維持したい」との想いが職員に膨らみ、「できることはなんでもやってもらおう」ということになり、『生活リハビリテーション』と『散歩』に力を注いでいる事業所です。散歩コースの一つには近くの寺院があり、住職の好意で蜜柑狩りを愉しむ日もあります。生活リハでは洗濯たたみや食器拭きをはじめ、少しずつ「できること」を増やし、自己有用感が高まれば「やりたいこと」へと発展するプロセスを見つめる職員の向上心にも灯が点き、「次はこうしよう」「ああしよう」とのコミュニケーションも増大して、相乗効果を産んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格を尊重し、”気と和み”を大切に、穏やかな介護を目指します。」という、ホーム独自の理念を掲げている。職員全員が理念を意識しながら声掛けや環境作りしている。	14年勤務するパートタイマーを筆頭に開設当初からの職員が残っていることもあって、スタート時に作成した理念を大切にしています。管理者が「親しみと節度のバランスを図れる人材になって欲しい」と考え、特に言葉遣いに注視して指導しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事への参加・散歩の時、近所の人と挨拶を交わす。	町内会に加盟して、お宮掃除やゴミゼロ運動にも参加しています。利用者と一緒に一本桜を眺めに毎年行く寺院の庭に実った柚子や蜜柑を住職がおすそ分けくださったり、近隣農家からも野菜が届いていて、目前のハンバーガーショップとも珈琲を通じてつきあいがあります。	学生の福祉体験の受入や園児の来訪に向け、アクションを起こすことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には、地域包括・市役所・区長・民生委員・御家族様の参加を得ています。サービス内容の報告意見を聞き、日々のサービス向上に活かしています。	偶数月開催を予定しており、滞りなく隔月開催が叶っています。家族、地域、行政の他同法人内の他市の事業所からも出席があり(相互参加)、多様な面々で構成されていて、情報集積に役立つ場と成っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員・市役所の方の参加を得て、情報提供を受け、連携をとっている。市の訪問を頻回に行い、事故報告・入居希望者について話し合い、協力関係を築いている。	稲沢市高齢介護課には運営推進会議に毎回足を運んでもらえ、利用者の中には生活保護者もいるため生活福祉課とも連携するとともに、昨年から地域包括支援センター職員も運営推進会議に出席くださっています。稲沢市が主催する集まりにはなかなか行けず、年1回程度です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束について勉強し、身体拘束しない環境作りをしていき、外出しそうな利用者には声をかけ一緒に出かけたたりしている。	法改正に則り『身体的拘束適正化検討委員会』を設置して、既に2回開催したことを議事録で確認しました。本件は法人研修の年間計画にも組み込まれていて、知識共有が図られ、現在対象となる症状の利用者もいません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を実施し、虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月AA課程を実施し、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談、パンフレット等を通して、家族への訪問、施設の契約説明等がより理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会、利用者への面談、行事への参加等機会を利用し、話し合いながら意見要望を聞くようにしている。それらを運営に反映させている。	『おたより』を職員の手書きで毎月家族に届け、また面会では日頃の様子を伝えるとともに「何かありますか？(大丈夫ですか)」と確認しており、家族は総じて「お任せします」といった態勢で、家族アンケートにも「家庭的な雰囲気でもよい」と上がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月1回開催している。意見や提案を聞くようにしている。	ユニットのリーダーは管理者不在時にもスムーズに対応でき、3本の矢の体制が出来つつあり、安心です。個人面談の機会を設けてはいませんが、管理者が気づけば声を掛けてマンツーマンで話し合ってもいて、毎月の職員会議では一人一言意見を述べる場を用意することもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員同志の風通しを良くし、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する研修に参加できるように努めている。AA課程毎月行い、勉強会を行っている。また、年2回G課程を行い、系列施設との交流を持ったり、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの尾西蓮池の家と交流を図り情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいるものを理解し、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、信頼関係も深められ相談に繋げられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供、その人らしさを見極めて本人・家族より決め細やかな情報を提供していただき取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のお便りや、来設時に近況情報をお伝えして、本人・家族の意向を把握し、安心して楽しく生活出来る場を提供していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、一緒に会話したり、近況報告をし、信頼関係を作っている。身体に変化有る場合は随時報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で情報を聞いたり、家族から話を聞いたりして情報を得て支援している。	水墨画が趣味だった人は継続は難しいものの、現在は塗り絵に励んでいます。3人の兄妹で連絡を取り合い、日を重ねず、また日をおかずには面会が慣行されている利用者の居室には、家族写真をウエルカムボードのようにデコレーションした楽しい掲示があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人・そうでない人と場面に応じて対応している。散歩・食事の時の席等工夫して対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係をサービス利用期間のみの関係に終わることのないように訪問・電話等によりいきめ細かい連携を心掛けて居る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様とのコミュニケーションを大切に利用者様の状況の報告や昔の話の中から御本人の喜びを知ることに努めている。	失語症の利用者には筆談で、耳が遠い人には膝をかかかって耳元でと、その人に合わせたコミュニケーションがおこなわれていますが、概ね自発性に富む人が多く、「あれ食べたい」「これしたい」が職員が把握しやすい状況にあり、都度応えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	“本人を知る事、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人全体像を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解した上、日々変化していく体調を毎日の暮らし方や心身状況をチェックし、よりよい暮らしをして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様より思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリングやカンファレンスを行っている。	更新では家族と利用者本人に意向を改めて聞き、職員意見はカンファレンス(各ユニット)で計画作成担当者(ユニットリーダー兼務)が集約したうえで、介護計画書のたたき台を作成していません。職員に理解の差は多少あるも、日々の実施記録を以てサービス内容を共有させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活で変化や気づきを個人別の介護詳細や申し送り帳に記録し、職員間で工夫しながら介護に取り組んでる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられように、区長・民生委員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の月2回往診以外にも相談したり、ほかの医療機関にも紹介して頂くなど支援している。利用者様の医療情報は家族を通じて医師とホームが共有している。	家族にはこれまでのかかりつけ医を継続することができると伝えてはいますが、通院介助が大変なこともあって25名が協力医に変更しています。医師は月2回来訪し、利用者本人は月1回の訪問診療を受け、立ち会った職員が介護詳細に書留め、情報共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による迅速な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と連携を図り、入院時には随時家族と連携をとり、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の理解を得て、看取りの経験を複数回経験している。利用者様・ご家族様の意向を尊重し、適切な対応をしている。	協力医は看取りに関して好意的ですが、家族の気持ちを鑑み契約時に詳細を伝えてはしません。本人の状態変化に応じて家族、医師と相談する段取りとしていて、家族には「(医療的なことはできない)家庭でできることのみとなりますが、いいですか」と確認して、取りかかっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力をえ得て、応急手当や蘇生術の研修を実施し全ての職員が対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、誘導、避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を年2回行っている。	風水害の対応訓練は昨年実施済みで、本年の防災訓練2回の内、1回は消防署の立ち合いを求めています。備蓄は2~3日で、食事が手作りのためローリングストックが+2日分程度あります。職員の定着率が高いため、訓練メニューはほぼ一巡して皆1度は体験しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時、介助者と共に中に入り、ドアを閉めて行っている。各居室に入室する際はノックと御本人に声を掛けて行っている。	職員はアイコンタクトと笑顔の対応がよくできていて、利用者一人ひとりを職員を信頼していることが見てとれます。「ねえねえ、個人情報だけど…」と職員に内緒話をねだった利用者にも、職員が「個人情報ならあとで(他の場所で)聴くからね」と返している様子も視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がスタッフに声の掛けやすい環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入眠の時間・食事・入浴に関して御本人の気持ちを理解しながら進めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着て頂けるように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や食器等も1人1人にあった物を提供出来る様にしている。	以前重度化の人が多かったなごりなのか、味噌汁をはじめ具材のカットは小さ目です。今月98歳となる利用者はいち早く完食する美味しさで、他の利用者も自慢げに「(私のお友達は)すごいでしょ」と調査者に語りかけてくるほどで、その健啖ぶりには本当に驚きます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分・摂取量、毎食チェックをしながら一人一人の体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のレベルに合わせ出来る事はして頂く。声掛けにより食後口腔ケアを行い、清潔を保つ。介助のいる方は口腔内ガーゼ等を使い、行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を行い、オムツやパットの使用を減らしている。訴えの無い方などは排泄チェック表をみて、誘導を行っている。	排泄チェック表をつけるとともに3時間程度の間隔で声をかけていますが、汚れてしまうこともあり、その都度検討してPDCAサイクルに乗せています。入院でレベルが落ちたままで事業所に戻ってきた利用者がリハパンから布パンに向上した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を絶えずチェックし、食事、服薬調整、便秘にならないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は準備を一緒に行い、着更時、入浴洗体も声掛けながらやって頂きます。定期的入浴を基本としている。体調が悪い時は全身清拭と着衣交換を行い、つねに清潔にしているように努めている。	週2回を目安に午後入浴を実施しています。拒否の人にもなるべく入ってもらいたいとして、「お湯加減みて欲しい」といった役割への有用感を満たす方法等、工夫を凝らしています。年数回ですが、住職に柚子をもらったときは柚子風呂を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のパターンに合わせて休憩時間を作っている。体調に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつ服薬管理、確認し症状の変化等記録をとりきめ細かくチェックしています。薬の管理は複数のスタッフで確認・服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きの手伝いをしていたいでいます。状況に応じてそうじき・ゴミ出しなど手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の協力なども頂き、喫茶店に出かけたり、季節の畑の作物を頂いている。施設においても畑に作物を育てたり、花を育てたり、近くの公園やお寺に花を見に出かけている。	敬老会、運動会、夏祭り等所内行事は年間計画があるものの、ドライブや遠出における予めプランはありません。それでも紫陽花見学や、神明社(隣に在る神社)への初詣、稲沢公園の薔薇園、目前にあるマクドナルドでの珈琲は回を重ね、散歩は幾つかのコースをもっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「おたより」の中に近況連絡事項等を書いてお知らせしています。イベントのお知らせもお便りに書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは利用者様が自由に誰でも話が出来る様テーブル・ソファを設置している。周りも車椅子が自由に動ける様にしています。	床は朝7時半から職員が掃除機をかけており、後方でモップがけする利用者も数名います。塗り絵やちぎり絵をアクティビティとして利用者、職員とで制作したものが季節を演出していて、見とれてしまう見事な墨絵は利用者の手因るものです。	浴室をはじめとする換気線の埃と、僅かですがエレベータ内の臭いは気になります。掃除箇所になっていないところを今後どのようにメンテナンスしていくのか、職員間で話し合うことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方がテーブルを囲んで好きな場所で過ごして頂けるように努める。レクを楽しめる様に他号館へ出かけて楽しめる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓はもちろん動きやすいように下には物は置かずしている。御本人の作品や写真を飾り暖かい雰囲気にはしています。	エアコン、ベッド、洗面台、カーテン付クローゼットが予め備わり、利用者は小さ目の筆筒などを持ち込んでいます。家族の来訪がある度に壁にかかる写真が増えている居室や、本人の力作が壁一面に貼りだされている部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置の配慮などし、居室内に自分の作品を飾っている。それぞれ出来る事を見極め、個々の支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900493		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲沢重本の家 2号館		
所在地	愛知県稲沢市重本2丁目84番地		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	平成30年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2373900493-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が家庭の延長として本人の意向に沿い、安心と喜び又は毎日笑顔のある生活が送れる様に努め、共同生活を提供します。医療面においては、協力医であるクリニック(往診)での対応させていただきます。毎日バイタルチェックなど体調管理させていただきますので異常時早期発見に努め、異常時には協力医に相談します。毎月施設で色々なイベントを考え、利用者様に楽しんで頂いています。利用者様と地域行事にも参加しています。年2回ごみゼロ運動やお宮掃除などに参加しています。また、外出支援にも力を入れ、喫茶店に行ったり、公園に散歩行ったり、あじさいを見に行ったり、いちよう祭りに行ったりします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年を経て重度化した利用者を見るにつけ、「このような状態の手前で何とか食い止めたい」「維持したい」との想いが職員に膨らみ、「できることはなんでもやってもらおう」ということになり、『生活リハビリテーション』と『散歩』に力を注いでいる事業所です。散歩コースの一つには近くの寺院があり、住職の好意で蜜柑狩りを愉しむ日もあります。生活リハでは洗濯たたみや食器拭きをはじめ、少しずつ「できること」を増やし、自己有用感が高まれば「やりたいこと」へと発展するプロセスを見つめる職員の向上心にも灯が点き、「次はこうしよう」「ああしよう」とのコミュニケーションも増大して、相乗効果を産んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格を尊重し、”気と和み”を大切に、穏やかな介護を目指します。」という、ホーム独自の理念を掲げている。職員全員が理念を意識しながら声掛けや環境作りしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加・散歩の時、近所の人と挨拶を交わす。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には、地域包括・市役所・区長・民生委員・御家族様の参加を得ています。サービス内容の報告意見を聞き、日々のサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員・市役所の方の参加を得て、情報提供を受け、連携をとっている。市の訪問を頻回に行い、事故報告・入居希望者について話し合い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束について勉強し、身体拘束しない環境作りをしていき、外出しそうな利用者には声をかけ一緒に出かけたたりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を実施し、虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月AA課程を実施し、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談、パンフレット等を通して、家族への訪問、施設の契約説明等がより理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会、利用者への面談、行事への参加等機会を利用し、話し合いながら意見要望を聞くようにしている。それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月1回開催している。意見や提案を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員同志の風通しを良くし、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する研修に参加できるように努めている。AA課程毎月行い、勉強会を行っている。また、年2回G課程を行い、系列施設との交流を持ったり、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの尾西蓮池の家と交流を図り情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいるものを理解し、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、信頼関係も深められ相談に繋げられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供、その人らしさを見極めて本人・家族より決め細やかな情報を提供していただき取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のお便りや、来設時に近況情報をお伝えして、本人・家族の意向を把握し、安心して楽しく生活出来る場を提供していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、一緒に会話したり、近況報告をし、信頼関係を作っている。身体に変化有る場合は随時報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で情報を聞いたり、家族から話を聞いたりして情報を得て支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人・そうでない人と場面に応じて対応している。散歩・食事の時の席等工夫して対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係をサービス利用期間のみの関係性に終わることのないように訪問・電話等によりいきめ細かい連携を心掛けて居る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様とのコミュニケーションを大切に利用者様の状況の報告や昔の話の中から御本人の喜びを知ることに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	“本人を知る事、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人全体像を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解した上、日々変化していく体調を毎日の暮らし方や心身状況をチェックし、よりよい暮らしをして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様より思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリングやカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活で変化や気づきを個人別の介護詳細や申し送り帳に記録し、職員間で工夫しながら介護に取り組んでる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられように、区長・民生委員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の月2回往診以外にも相談したり、ほかの医療機関にも紹介して頂くなど支援している。利用者様の医療情報は家族を通じて医師とホームが共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による迅速な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と連携を図り、入院時には随時家族と連携をとり、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の理解を得て、看取りの経験を複数回経験している。利用者様・ご家族様の意向を尊重し、適切な対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力をえ得て、応急手当や蘇生術の研修を実施し全ての職員が対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、誘導、避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を年2回行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、トイレ介助の際は、介助者も一緒に入り、ドアを閉め、1人で入られる利用者様はドアを閉め、ドアの外で見守りしています。声掛けには特に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションにより、信頼関係を築き、利用者様・ご家族様と共に考え、残存機能を見極め、本人の思いを理解し、希望に添える様に努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入眠の時間・食事・入浴に関して御本人の気持ちを理解しながら進めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着て頂けるように援助している。二か月に一回移動美容室が有り、利用者様の希望を聞き、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のレベルに合わせた食事形態を工夫しており、嚥下の悪い方にはトロミを付けたりしています。また、食後の食器拭きなどを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分・摂取量、毎食チェックをしながら一人一人の体調管理に努めている。嚥下の悪い利用者様にはその人に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のレベルに合わせ出来る事はして頂く。声掛けにより食後口腔ケアや義歯の洗浄などを行い、清潔を保つ。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗する事無く、トイレで排泄出来る様にそれぞれの排泄パターンを把握して、必要に応じて声掛けや誘導・介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を絶えずチェックし、便秘の場合主治医に相談し、排便コントロールしている。飲水量にも気配りし対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を個浴で入浴して頂いてますが、希望のある方はその都度入ってもらい、喜んでもらってます。、ゆっくり安全に楽しめる様に見守りを行い、入浴して頂いている。体調不良の方は陰洗・清拭を行い、清拭を保持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のパターンに合わせて休憩時間を作っている。体調に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつ服薬管理、確認し症状の変化等記録をとりきめ細かくチェックしています。薬の管理は複数のスタッフで確認・服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きの手伝いをしていたでいます。状況に応じてそうじき・ゴミ出しなど手伝って頂いてる。出来る限りやって頂けることはやって頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調・天候をみながら散歩をしたり、自立度の高い利用者様は距離を伸ばし、近くの公園まで行ってます。施設で育てている花の成長を見たり、毎日水やりしたりしてます。外出支援にも力を入れ、喫茶店に行ったり、町内の交流にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「おたより」の中に近況連絡事項等を書いてお知らせしています。イベントのお知らせもお便りに書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビが見やすいようにテーブルの配置・ソファの配置を工夫して全員が見やすいようにし、歩行がしやすいように広くしてます。掃除をこまめにして清潔に保ってます。リビングは季節感を取り入れてます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が皆でゲームやうたを楽しめる様、テーブルや椅子を設置し、ゆとりと笑いのある居間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が生活しやすい様空間づくりをしています。ADLに合わせ、ベッドの位置などにし、早めの対応し、転倒防止を心掛け、安心して生活出来る様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、物の配置の配慮などし、居室内に自分の作品を飾っている。それぞれ出来る事を見極め、個々の支援を行ってる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900493		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲沢重本の家 3号館		
所在地	愛知県稲沢市重本2丁目84番地		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	平成30年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2373900493-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が家庭の延長として本人の意向に沿い、安心と喜び又は毎日笑顔のある生活が送れる様に努め、共同生活を提供します。医療面においては、協力医であるクリニック(往診)での対応させていただきます。毎日バイタルチェックなど体調管理させていただきますので異常時早期発見に努め、異常時には協力医に相談します。毎月施設で色々なイベントを考え、利用者様に楽しんで頂いています。利用者様と地域行事にも参加しています。年2回ごみゼロ運動やお宮掃除などに参加しています。また、外出支援にも力を入れ、喫茶店に行ったり、公園に散歩行ったり、あじさいを見に行ったり、いちよう祭りに行ったりします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年を経て重度化した利用者を見るにつけ、「このような状態の手前で何とか食い止めたい」「維持したい」との想いが職員に膨らみ、「できることはなんでもやってもらおう」ということになり、『生活リハビリテーション』と『散歩』に力を注いでいる事業所です。散歩コースの一つには近くの寺院があり、住職の好意で蜜柑狩りを愉しむ日もあります。生活リハでは洗濯たたみや食器拭きをはじめ、少しずつ「できること」を増やし、自己有用感が高まれば「やりたいこと」へと発展するプロセスを見つめる職員の向上心にも灯が点き、「次はこうしよう」「ああしよう」とのコミュニケーションも増大して、相乗効果を産んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格を尊重し、”気と和み”を大切に、穏やかな介護を目指します。」という、ホーム独自の理念を掲げている。職員全員が理念を意識しながら声掛けや環境作りしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加・散歩の時、近所の人と挨拶を交わす。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には、地域包括・市役所・区長・民生委員・御家族様の参加を得ています。サービス内容の報告意見を聞き、日々のサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員・市役所の方の参加を得て、情報提供を受け、連携をとっている。市の訪問を頻回に行い、事故報告・入居希望者について話し合い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束について勉強し、身体拘束しない環境作りをしていき、外出しそうな利用者には声をかけ一緒に出かけたたりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を実施し、虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月AA課程を実施し、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談、パンフレット等を通して、家族への訪問、施設の契約説明等がより理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会、利用者への面談、行事への参加等機会を利用し、話し合いながら意見要望を聞くようにしている。それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月1回開催している。意見や提案を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員同志の風通しを良くし、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する研修に参加できるように努めている。AA課程毎月行い、勉強会を行っている。また、年2回G課程を行い、系列施設との交流を持ったり、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの尾西蓮池の家と交流を図り情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいるものを理解し、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、信頼関係も深められ相談に繋げられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供、その人らしさを見極めて本人・家族より決め細やかな情報を提供していただき取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のお便りや、来設時に近況情報をお伝えして、本人・家族の意向を把握し、安心して楽しく生活出来る場を提供していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、一緒に会話したり、近況報告をし、信頼関係を作っている。身体に変化有る場合は随時報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で情報を聞いたり、家族から話を聞いたりして情報を得て支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人・そうでない人と場面に応じて対応している。散歩・食事の時の席等工夫して対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係をサービス利用期間のみの関係性に終わることのないように訪問・電話等によりいきめ細かい連携を心掛けて居る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様とのコミュニケーションを大切に利用者様の状況の報告や昔の話の中から御本人の喜びを知ることに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	“本人を知る事、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人全体像を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解した上、日々変化していく体調を毎日の暮らし方や心身状況をチェックし、よりよい暮らしをして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様より思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリングやカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活で変化や気づきを個人別の介護詳細や申し送り帳に記録し、職員間で工夫しながら介護に取り組んでる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられように、区長・民生委員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の月2回往診以外にも相談したり、ほかの医療機関にも紹介して頂くなど支援している。利用者様の医療情報は家族を通じて医師とホームが共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による迅速な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と連携を図り、入院時には随時家族と連携をとり、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の理解を得て、看取りの経験を複数回経験している。利用者様・ご家族様の意向を尊重し、適切な対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力をえ得て、応急手当や蘇生術の研修を実施し全ての職員が対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、誘導、避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を年2回行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の呼称には(さん)をつけ職員は敬意をもって接している。各自室に入室する際はノックをし、御本人に声掛けを行ってから入室する様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションにより、信頼関係を築き、利用者様・ご家族様と共に考え、残存機能を見極め、本人の思いを理解し、希望に添える様に努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様との会話の中からどのように過ごしたいか探り、出来る範囲内で希望に沿った暮らしが出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着て頂けるように援助している。二か月に一回移動美容室が有り、利用者様の希望を聞き、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が1人で食事出来る様に食べやすい大きさにするなど工夫し、皆で食事を囲み、楽しく食事をしていただけるように心がけています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分毎食チェックをしながら一人一人の体調管理に努めている。嚥下の悪い利用者様にはその人に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のレベルに合わせ歯磨き等出来る事はして頂く。声掛けにより食後口腔ケアを行い、清潔を保つ。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗する事無く、トイレで排泄出来る様にそれぞれの排泄パターンを把握して、必要に応じて声掛けや誘導・介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェック表をチェックし、食事量見ながら排便状況を把握し、水分摂取して頂いたり、体を動かしたりして頂き、便秘にならない様に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を個浴で入浴して頂き、体調不良の方は陰洗・清拭を行い、清拭を保持している。気持ち良く入浴できるような声掛けを心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は起きて活動出来る様声掛けし、生活のリズムを整え、夜間しっかり眠って頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつ服薬管理、確認し症状の変化等記録をとりきめ細かくチェックしています。薬の管理は複数のスタッフで確認・服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみなどの手伝いをして頂いたり、トランプや百人一首・合唱など一緒に楽しんでも。ボランティアや職員主催の毎月のイベントを行い、準備として作品作りなど一緒に行ってる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調・天候をみながら散歩をし、近くにある季節の花をみて楽しんだりしている。近くの喫茶店に行ったり、買い物したり、外出支援している。協力して頂ける家族様と一緒に散歩したり外食して頂いてる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「おたより」の中に近況連絡事項等を書いてお知らせしています。イベントのお知らせもお便りに書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテレビがどこからでも見える様にテーブルの配置をし、一緒にテレビ視聴出来る様にしている。調理時の音や匂いにより家庭的な雰囲気を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間の場所を時々位置変更したり気分転換して頂けるように工夫しています。気の合った利用者様同士がゲームしたりテレビを見たり、ゆっくりした環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には御本人が施設に見える前の馴染みのものを持ってきていただき、安心して過ごせる空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置の配慮などし、居室内を一緒に整理したり、自分の作品を飾っている。それぞれ出来る事を見極め、個々の支援を行っている。		